



岩手県ホームページでも
ご覧いただけます ▼



美しい 県土づくりNEWS

2024年

7月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第238号
令和6年7月31日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 岩手県広域サイクリングルート
名称考案者への感謝状贈呈セレモニーを開催しました！
- 4 一般国道107号大石地区道路災害復旧事業
西和賀町民へのトンネル現場見学会を開催しました！
- 7 吸川放水路をPR！
地元小学校による施設見学会を開催しました！
- 8 令和6年渇水において入畑ダムが効果を発揮しました
- 10 ぼくらの大発見！われら砂防堰堤探検隊！
～小学生を対象に、関係機関合同で現地講座を実施～
- 12 複合商業施設「monaka」オープンしました！
- 13 県内各地で景観学習を実施しています！
- 14 下水道・浄化槽 出前講座を開催しています！
- 16 東日本大震災津波からの住宅復興支援の取組について
高校生に向け防災学習を実施しました
- 18 「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました
- 19 岩手県内で発生した豚熱の防疫措置への対応
～県建設業協会に御協力いただきました～

三陸復興

～ 岩手県広域サイクリングルート ～ 名称考案者への感謝状贈呈セレモニー を開催しました！！



～ 名称考案者（6名）の皆さんを囲んで記念撮影 ～

中列
左から

岩手県立大学 宇佐美 様	小田拓美 様	森山 靖 様	須山恵美 様	安部富士男 様	小野寺克夫 様	熊谷志朗 様
来賓	いわてイーハトーブルート考案者			いわて三陸しおかぜルート考案者		



岩手県広域サイクリングルート 名称考案者への感謝状贈呈セレモニーを開催しました！！



道路環境課

岩手県では、令和3年3月に策定した岩手県自転車活用推進計画に基づき、自転車を活用した観光振興等を促進するため、地域特性を生かした広域的なサイクリングルート（以下「広域サイクリングルート」という。）を設定・整備することとしており、本年3月にルート及びルート名称を決定したところです。6月15日、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園にて、「**広域サイクリングルート 名称考案者への感謝状贈呈セレモニー**」を開催しましたのでお知らせします。

今回開催したセレモニーには、4つのルートの名称考案者9名のうち、県内外から6名が参加したほか、来賓として広域サイクリングルート検討会議の座長を務められた岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授に出席いただきました。セレモニーでは、岩手県県土整備部の菅原道路担当技監が主催者挨拶を行った後、宇佐美准教授から来賓者挨拶を頂戴しました。続いて、岩手県県土整備部道路環境課の高瀬総括課長が、広域サイクリングルートの概要説明を行った後、菅原道路担当技監から、セレモニーに参加された名称考案者6名に対して感謝状を贈呈しました。



【主催者挨拶】 菅原道路担当技監



【来賓者挨拶】 岩手県立大学 宇佐美准教授



【概要説明】 道路環境課 高瀬総括課長



【感謝状の贈呈】 須山 様

感謝状の贈呈後、名称考案者の代表2名から、「広域サイクリングルートの名称に込めた想い」を発表していただきました。このうち、「いわて三陸しおかぜルート」の考案者である熊谷志朗様からは、「三陸の潮風を感じながらサイクリングを楽しんで欲しい！」とルート名称に込めた想いを発表いただきました。



【セレモニーの状況】



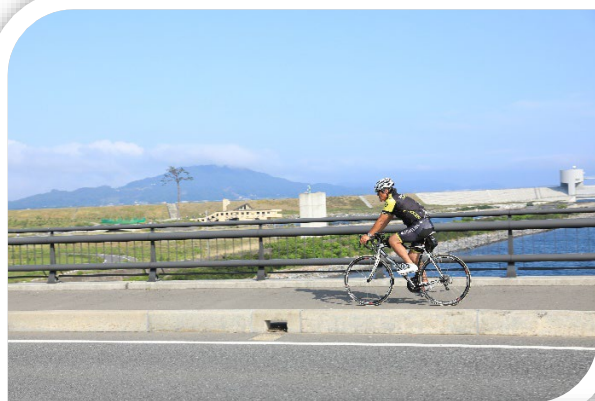
【名称考案者からの発表】熊谷 様

今回のセレモニーを契機に、今後、全国のサイクリストの皆さんに岩手県の広域サイクリングルートが認知され、**自転車を活用した観光振興が促進されることを期待**しています。

～ポタリングイベント(自転車周遊イベント)も同時開催しました！～

セレモニー終了後、「いわて三陸しおかぜルート」の一部をポタリングしました。

ツアーガイドの方々に陸前高田市内の観光スポットを紹介していただきながら、爽やかな三陸の潮風を感じつつ、約12kmのサイクリングを楽しみました！！ 🚲🚲🚲



【問い合わせ先】

岩手県 県土整備部 道路環境課

TEL : 019-629-5878

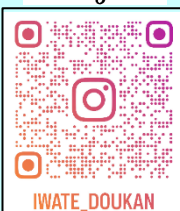
Email : AG0004@pref.iwate.jp

【県ホームページ】

<https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/douro/bicycle/index.html>



Instagram



IWATE_DOUKAN

一般国道107号大石地区道路災害復旧事業 西和賀町民へのトンネル現場見学会を開催しました！

県南広域振興局土木部北上土木センター

岩手県では、一般国道107号西和賀町大石地区で令和3年5月に発生した地すべりの災害復旧事業として、トンネル工事を進めています。

令和6年6月9日、**西和賀町民を対象としたトンネル現場見学会**を開催し、**約100名**の方に参加いただきました。

【トンネル工事の概要説明】



トンネルの構造や使用する機器の紹介、トンネル発破体験やロックボルト重量体験、防水シートへのメッセージの記入など、工事受注者が工夫を凝らし、充実した見学会になりました。

【測量機器の説明】





参加者からは、「ロックボルトはなぜ必要?」「どうやって丸い形にするの?」などの質問をいただいたほか、「見た目がトンネルらしくなった」「完成が楽しみ」などの感想もいただき、災害復旧事業やトンネル工事の進捗を実感いただくとともに、地域の方々の期待の高さを感じることができました。



トンネルは、令和5年7月から掘削を開始し、7月末時点で約1,180mの地点まで掘り進んでいます。

一般国道107号大石地区の早期復旧に向けて安全第一で事業を推進し、ますます地域に愛される道路となるよう、令和8年度の事業完了に向けて引き続き取り組んでいきます。

大石地区災害復旧事業の概要

- 事業費：約130億円
- 概要：トンネル工約1,460m
橋梁工約70m
応急仮工事一式
(押え盛土工、仮橋工)
- 事業期間：令和8年度まで

仮橋カードを 配布します!

国内最大級の
仮橋がカードに!

詳しくは
次ページを
ご覧ください!

一般国道107号大石地区道路災害復旧事業



仮橋カードを 配布します!

無くなり
次第終了

夏Ver. 令和6年**8月10日**～

冬Ver. 令和6年**12月1日**～



令和3年5月に地すべりにより通行止めとなった一般国道107号大石地区では、本復旧の工事が完了するまでの間、う回路として国内最大級の仮橋を架設し、令和4年11月に供用を開始いたしました。

岩手県では、大石地区災害復旧事業を知っていただくために、西和賀町の魅力等を広く発信するため、仮橋カードを作成しました。下記のとおり西和賀町の2施設で配布しますので、ぜひご覧ください。



カードを傾けると
その時期の名所の
写真に変わります!

2種類 一般国道107号
大石地区の仮橋

配布場所



岩手県県南広域振興局土木部北上土木センター

〒024-8520 岩手県北上市芳町2-8 TEL:0197-65-2738(担当:道路環境課道路環境第2チーム)

仮橋カードの詳細は以下の岩手県ホームページをご覧ください。

トップページ>県南広域振興局>北上土木センター>一般国道107号西和賀町大石地区における道路法面等の変状

URL: https://www.pref.iwate.jp/kennan/kita_doboku/1043155/index.html



岩手県ホームページ

吸川放水路をPR!

地元小学校による施設見学会を開催しました!!

県南広域振興局土木部一関土木センター

岩手県が管理する一関市内の一級河川吸川の放水路トンネルにおいて、一関市立南小学校の4年生児童(49名)を対象に、同校の社会科学習の一環として、令和6年6月12日、毎年恒例となっている施設見学会を開催しました。

今年は、晴天の中開催することができ、児童たちは施設概要説明などを熱心に聞いていました。その後のトンネル内部の見学では、児童から「大きい!」「奥まで歩きたい!」「冷たい!」などの声が寄せられ、質問タイムでは、「大きさは?」「高さは?」「魚はいるの?」「動物は入ってくる?」など、多くの児童から質問が出され、楽しく元気に理解を深めていただくことができました。



南小学校 施設見学会

事前合同清掃活動の実施

見学会の開催に先立ち、当センターでは、一般社団法人岩手県建設業協会一関支部のご協力をいただき、合同で放水路出口付近の清掃活動を実施しました。

約37名の職員・会員が参加し、子どもたちが安全で綺麗な環境で見学会ができるようにとの思いを共にしながら、雨天の中清掃活動に励みました。



事前合同清掃活動

吸川放水路の概要

- ① 役割：新山川と吸川の洪水を、トンネル等を使って磐井川へバイパスさせる河川施設です。
- ② 延長等：放水路総延長 $L=1,631\text{m}$
(うち、吸川合流部下流 $L=1,184\text{m}$)
- ③ トンネル規格(最大)：幅 $B=11.8\text{m}$ /高さ $H=8.4\text{m}$
- ④ 工事期間：昭和47年~56年(43年前に完成)

今後について

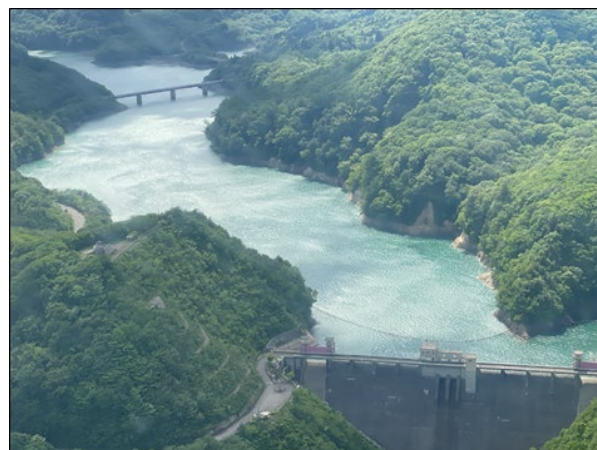
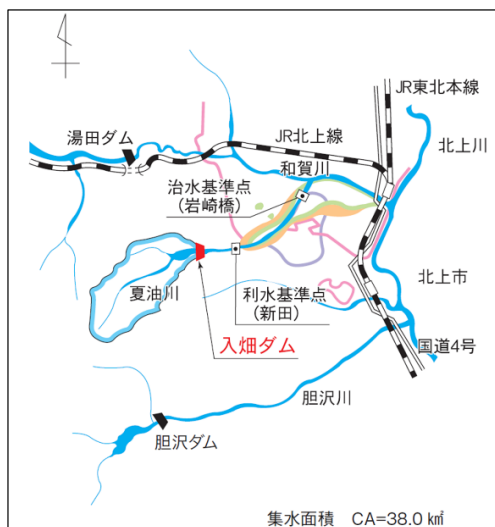
当センターでは、インフラツーリズムや工事現場見学会等に積極的に取り組んでいるところですが、今後も、このような施設見学会を開催することで、地元の方々や将来の地域を担う子どもたちに、施設の役割や事業効果を理解してもらう機会として、また、建設業に関心を持ってもらうきっかけづくりとして、PRを行っていきたいと考えています。



令和6年渇水において 入畑ダムが効果を発揮しました

河川課

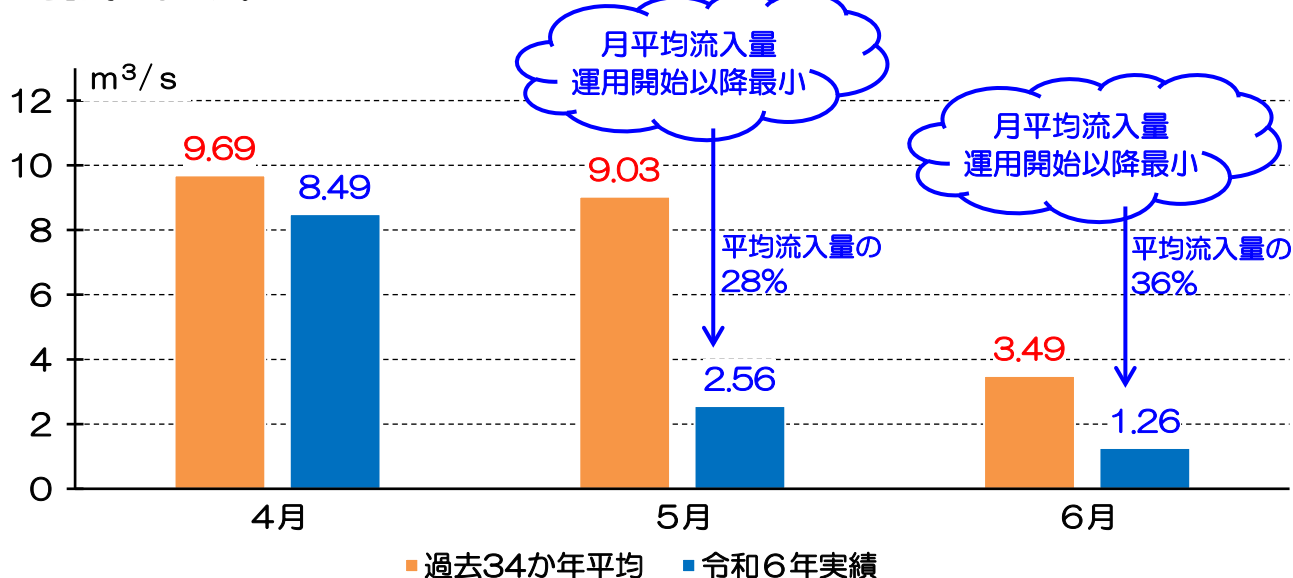
1. 入畑ダムの概要



所在地	左岸	岩手県北上市和賀町岩崎新田1地割171
	右岸	岩手県北上市和賀町岩崎新田1地割171
河川名	夏油川（1級）	
目的	F.N.W. I.P.A	
型式	G：重力式コンクリートダム	
堤高	80m	
流域面積	38.0km ²	
総貯水容量	15,400千m ³	
有効貯水容量	13,900千m ³	
洪水調節方式	自然調整（ゲートレス）	
管理開始	1990（平成2年）	
適用法規	河川法	
総事業費	194億円	
管理者	岩手県	

2. 5～6月の月平均流入量がダム運用開始以降最少を記録

- 入畑ダムでは、今冬の少雪及び少雨の影響によりダムへの流入量が低下しました。
- 令和6年5、6月の平均流入量は過去の平均流入量を大きく下回り、ダムの運用開始以降最少を記録しました。



3. 令和6年入畑ダム渇水状況

(令和6年6月24日撮影)



▲入畑ダム堤体周辺



▲夏油大橋周辺



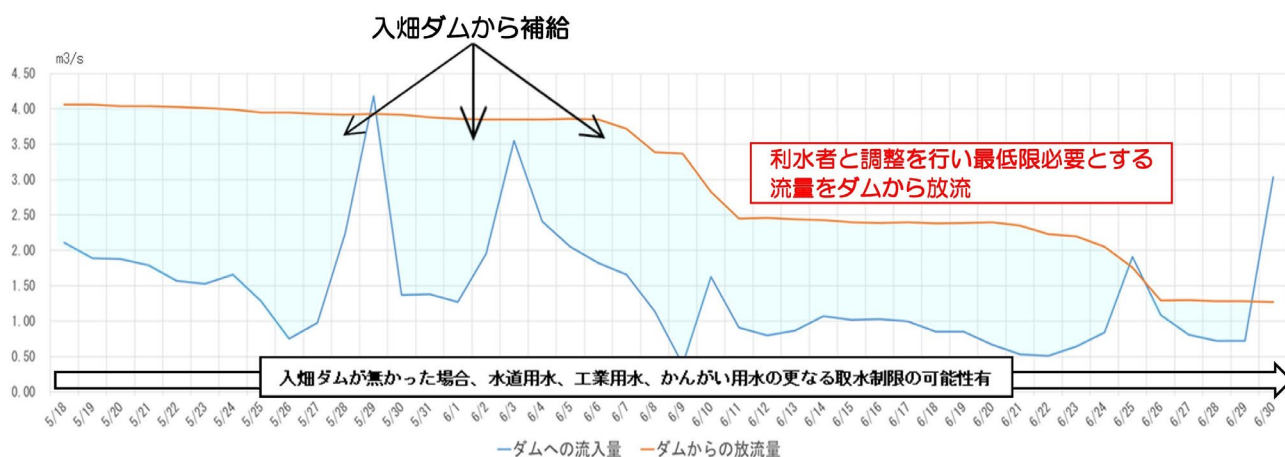
▲ダム湖内①



▲ダム湖内②

4. 入畑ダムによる効果

- 岩手県では4月以降、少雨の傾向が続き、渇水が懸念されたことから、令和6年5月から6月までの期間、入畑ダムから夏油川に合計約871万 m^3 の水量を補給しました。
- 水道用水、工業用水、かんがい用水について、利用者と調整を行いながら、最低限必要とする流量をダムから放流することにより、渇水による各種用水への影響を低減するとともに、夏油川の河川環境の維持に効果を発揮しました。



ぼくらの大発見！われら砂防堰堤探検隊！ **～小学生を対象に、関係機関合同で現地講座を実施～**

砂防災害課・盛岡広域振興局土木部岩手土木センター

岩手県では、岩手河川国道事務所及び関係市町と合同で、次代を担う小学生を対象に、八幡平山系における土砂災害（火山噴火）の発生メカニズムや、地域の安全を支える砂防施設の役割を理解し、災害から自らの命を守る知識を習得することを目的に、『砂防堰堤探検隊』を平成8年度から開催しています。

今年度は、7月2日に雫石町立西山小児童29名、7月24日に盛岡市立好摩小児童33名が探検しました。

砂防堰堤の効果を確認！

探検隊は、まず、八幡平市の「イーハトーブ火山局」で火山について学習しました。岩手山で近年噴火の可能性が高まったこと、噴火した場合に発生する土砂災害を動画で体感しました。

次に、火山災害による被害を軽減するために、国や県が砂防堰堤を設置していることや、砂防堰堤の効果を実験で学びました。また、砂防堰堤などのハード対策だけでなく、災害時の避難がとても重要であることも学びました。



▲開会式（イーハトーブ火山局にて）



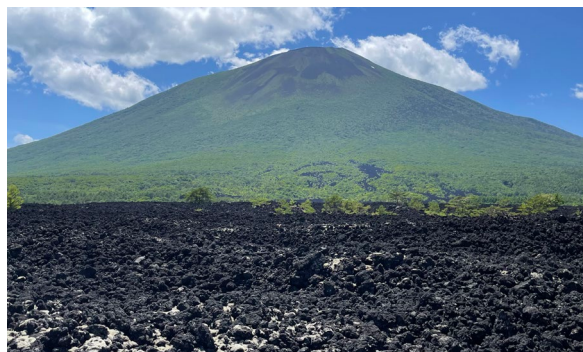
▲砂防堰堤の効果を実験で確認！

溶岩流を探検！

そして、特別天然記念物に指定されている焼走り溶岩流に移動し、290年前の噴火の爪痕がそのまま残る景観を眺めながら、岩手山の美しさと火山の脅威を肌で感じました。



▲焼走り溶岩流の成り立ちを学ぶ探検隊



▲岩手山と焼走り溶岩流

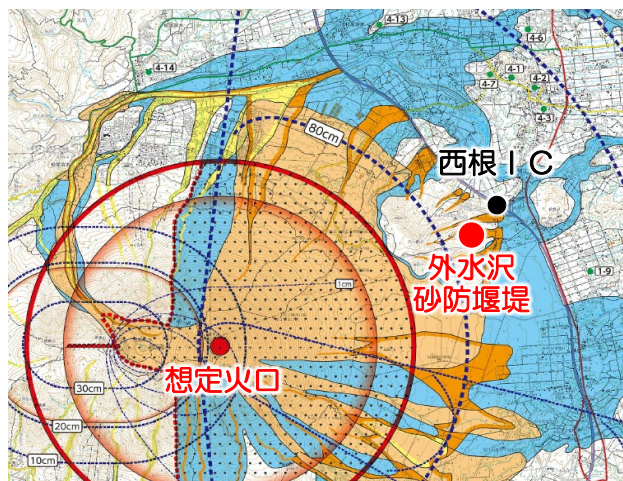
砂防堰堤の工事現場を見学！

最後に、岩手土木センターが施工中の「外水沢火山砂防堰堤」の工事現場を見学しました。

現場では、砂防堰堤の築造に先立ち、地盤改良（中層混合処理）を進めているところです。

探検隊からは「岩手山は次にいつ噴火するのか？」「命を守るためにはどうすればいいのか？」「どんな時に土砂災害が起こりやすいのか？」など、たくさんの質問がありました。

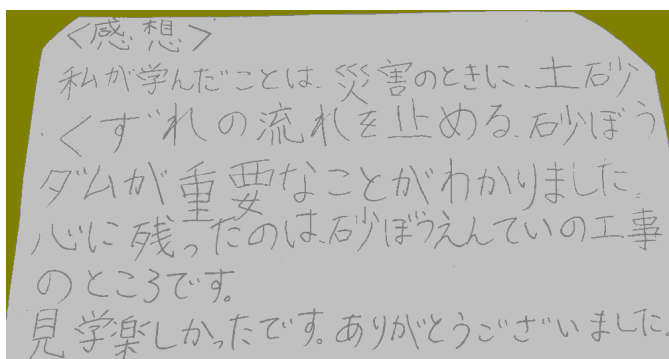
今後も、多くの探検隊を現場にご案内し、関係機関とともに防災意識の啓発に努めていきます。



▲岩手山の想定火口と外水沢砂防堰堤の位置
(岩手山火山防災マップから抜粋して作成)



▲修了証書と記念品を贈呈！



▲探検隊からの御礼の手紙



▲工事現場をバックに記念撮影！

複合商業施設「monaka」オープンしました！

都市計画課

令和6年7月11日に盛岡市中ノ橋通に複合商業施設 **monaka** がオープンしました。
運営会社である株式会社モナカ主催によるオープニングセレモニーが執り行われ、テープカット及びくす玉開披により、グランドオープンを祝いました。



テープカット、くす玉開披



monaka全景

monakaには、県産品を取り扱う店舗をはじめ、飲食店、物販店、病院、塾等のテナントが入っています。

monakaの整備により、中心市街地の活性化や価値向上を図るとともに、盛岡バスセンターと一体となり、県内外の人やモノが行き交う広域的な拠点となることが期待されます



オープンを心待ちにしている
長蛇の列



盛岡さんざ伝承会 もいち
の演舞もありました



いよいよオープン！
初日は約4万人が来場！

令和6年7月3日には、オープンに先立ち、工事の完成に感謝する竣工式及び内覧会も執り行われました。

【施設概要】

- ・地上4階建て、地下1階
- ・延べ床面積約15,000㎡



県内各地で景観学習を実施しています！

都市計画課

岩手県では、子どもたちが身近な景観を通じて地域の魅力や課題を発見する体験型学習「景観学習」を実施しています。

令和6年度は7市町9校で景観学習に取り組む予定であり、7月までに5校で実施しています（残り4校は11月までに実施予定）。そのうち3校は今年度が初めての実施であり、県内における景観学習の取組が広がっています！

景観学習とは？

景観学習は、県内の小・中学生を対象に、身近な景観から地域の歴史や文化を理解しながら地域の魅力を感じ取る機会を提供することにより、『① 景観とは何かということについて理解を促し、② 地域の景観をみんなの共有財産として大切にする意識を高め、③ 地域に対する誇りや愛着心を育み、景観づくりの担い手として自ら考え行動できる人材を育成する』ことを目的とした取組です。

景観学習の流れ（例）



1日目＜ガイドス・まち歩き＞

- 『景観』『まち歩き』について授業を実施。
- 学校の外に出て、『好き』『嫌い』『気になる』などたくさんの景観を自由に撮影。（ひとり1台デジタルカメラを貸与）

2日目＜景観シート・マップ作成＞

- 撮影した写真を印刷し、景観シートを作成。（①テーマ、②どう思ったか、③タイトルをまとめる）
- 選んだ景観の撮影位置を地図にプロットして、景観マップを完成させる。

令和6年度の実施状況

令和6年度 岩手県景観学習実施校 (R6.7月末時点)			
	学校名	学年・人数	実施時期
1	久慈市立久慈湊小学校	3年生22人	6月
②	平泉町立長島小学校	3年生16人	6月
3	紫波町立日詰小学校	5年生69人	6月
④	盛岡市立東松園小学校	3年生18人	6月・7月
5	雫石町立御所小学校	4年生18人	7月
6	一関市立厳美小学校	3年生9人	9月予定
⑦	陸前高田市立米崎小学校	3年生19人	9月予定
8	一関市立花泉小学校	3年生77人	9月予定
9	一関市立室根小学校	5年生55人	11月予定

○：初めて景観学習を実施する学校

【講師】いわてNPO-NETサポート 菊池 広人 事務局長

子どもたちからは、

「自分たちの住んでいる場所にも素晴らしい景色がたくさんあることを知った！」

「カメラで写真を撮るのが楽しかった！」

などの声や、先生方からも

「地域学習に適していてとてもいい取組みです！」

という感想をいただいています！

景観学習の実施内容については『景観学習のススメ』を参考にしてください！ **岩手県 景観学習** で検索！

<https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/toshigesui/machizukuri/1010110/1010114.html>

下水道・浄化槽 出前講座を開催しています！

下水環境課

岩手県では、環境教育活動への支援の一環として、下水道や浄化槽の汚水処理施設の普及啓発活動を実施しており、学校や団体を対象に、平成20年度から公益財団法人岩手県下水道公社と連携した「下水道出前講座」を、平成21年度から公益社団法人岩手県浄化槽協会と連携した「浄化槽出前講座」を、それぞれ開催しています。

今年度は7月末現在、北上市立笠松小学校など11校467名の児童を対象に講座を実施しました。

<出前講座の様子>



下水道・浄化槽の役割を説明



浄化槽の模型を解説



顕微鏡で微生物の観察



下水道・浄化槽の仕組みを説明し、汚水をきれいにしている微生物を顕微鏡で観察しました。児童たちは、微生物が汚水をきれいにしていること、汚泥がリサイクルされていることに驚き、実際に動いている微生物に興味津々で見っていました。「汚水をきれいにする微生物は何種類くらいいるのか」などの質問や、「微生物が食べられないものは流さないようにしたい」などの感想を沢山いただきました。

<7月末時点での開催状況>

	実施日	学校名	人数
1	5月29日	北上市立笠松小学校	13人
2	6月3日	岩泉町立岩泉小学校	26人
3	6月4日	八幡平市立寄木小学校	11人
4	6月24日	盛岡市立山岸小学校	99人
5	6月27日	矢巾町立矢巾東小学校	73人
6	7月1日	盛岡市立月が丘小学校	34人
7	7月2日	宮古市立山口小学校	44人
8	7月12日	一関市立黄海小学校	10人
9	7月12日	大船渡市立吉浜小学校	7人
10	7月18日	滝沢市立一本木小学校	26人
11	7月19日	北上市立黒沢尻東小学校	124人

○ オンライン方式での下水道出前講座も対応可能です！



汚水処理のしくみなどについて、下水処理場内や微生物の様子を動画で説明し、児童にクイズを出しながら講座を行います。

今後も、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止していくために、「水の循環と汚水処理の大切さ」を子供たちに伝え、汚水処理施設の普及や汚水処理人口普及率の向上に取り組んでいきます。

下水道・浄化槽出前講座 申込先

岩手県 下水環境課 下水管理担当 TEL 019-629-5896 FAX 019-629-9130

東日本大震災津波からの住宅復興支援の取組について 高校生に向け防災学習を実施しました

建築住宅課

東日本大震災津波の発生による仮設住宅・災害公営住宅の建設経験を中心に高校生を対象に説明を行いました。岩手県の住宅支援（応急仮設住宅、災害公営住宅）の取組として「住宅支援事業」、「応急仮設住宅の維持管理」、「災害公営住宅のコミュニティ形成」について講義をしました。

1 開催日時・場所

日時：令和6年7月22日 9:00～15:30

場所：（講義会場）盛岡みたけ支援学校高等部体育館
（見学会場）災害公営住宅県営南青山アパート

2 参加校

7月22日

盛岡中央高等学校（家庭部）12名

県立盛岡工業高等学校（建築・デザイン科）38名

7月12日

京都市立京都工学院高等学校 ※講義のみ実施

3 講義内容

講義(1)能登半島地震の被災地支援について

岩手県県土整備部建築住宅課 主査 廣瀬 栄司

講義(2)東日本大震災時の仮設住宅、災害公営住宅の管理者
から見た復興支援について

一般財団法人岩手県建築住宅センター住宅管理局
工務部 部長 佐藤 好陽 様

講義(3)岩手県の震災復興～住宅事業を中心に

岩手県県南広域振興局土木部花巻土木センター
建築指導課長 高杉 諭吏

講義(4)広域避難とコミュニティ形成 -もりおか復興支援センターの活動-

もりおか復興支援センター センター長 金野 万里 様

住戸見学 災害公営住宅 県営南青山アパート

意見交換 テーマ1「広域避難とコミュニティ形成」の講義を受けて思った事

テーマ2「東北防災学習」をどのように生かしたいか

4 防災学習

応急仮設住宅の建設や維持管理、恒久的な住宅復興の経験が、令和6年能登半島地震の仮設住宅建設に活かされていることを説明しました。

また、もりおか復興支援センターの金野センター長から、地域食堂や花壇づくりなど盛岡地域における被災者支援の取組を説明していただきました。内陸部でも被災地支援が行われており、継続する重要性について説明がありました。



■ 講義風景



- 建築の専門的な内容も詳しく解説しながら説明しました

■ 見学状況（災害公営住宅 南青山アパート）



- 集会所の台所には、鮭を一匹さばける流し台があります
- 張出したニッチ（くぼみ）で井戸端会議

■ 意見交換の様子（盛岡中央高等学校、盛岡工業高等学校）



- 活発な意見交換ができました
（地域の人とコミュニケーションを取って、災害時も協力できるようにしたいなど）

「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました

建設技術振興課

令和6年6月18日、「第32回優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を盛岡市のプラザおでつで開催しました。

この表彰は、優れた建設現場従事者を広く表彰することにより、「ものづくり」に携わっている者の誇りと意欲を増進させ、これらの方々の能力と資質の向上を図るとともに、その社会的評価・地位の向上を図り、建設業の健全な発展に資することを目的として実施しているもので、平成5年度から開催しているものです。

今年度の受賞者は8名で、表彰式では八重樫副知事から表彰状と徽章が授与されました。

【受賞者一覧】

受賞者名	所属会社	所在地
石森 裕浩	(株) 中央コーポレーション	花巻市
小原 智	岩手基礎工業(株)	北上市
佐々木 信	(株) 畑中組	岩泉町
佐々木 直樹	(有) 佐々木钣金	花巻市
佐藤 英司	(株) 照甲組	花巻市
筒井 龍二	(株) 佐々木組	一関市
乳井 俊介	(株) 熊谷工務店	盛岡市
林崎 正利	種市電工(株)	洋野町



岩手県内で発生した豚熱の防疫措置への対応 ～県建設業協会に御協力いただきました～

県北広域振興局土木部・建設技術振興課・県土整備企画室

令和6年5月末、九戸郡洋野町で豚熱が発生しました。

豚熱は、人に感染することではなく、感染した豚の肉が市場に出回ることはありませんが、まん延防止のため、発生農場で殺処分し、埋却する防疫措置が図られました。

殺処分した豚の埋却作業等に当たっては、一般社団法人岩手県建設業協会久慈支部のみなさまに、昼夜を問わない作業に全面的に御協力いただきました。（23日間、延べ1,228人）

【発生からの対応等の経緯】

令和6年	内 容	県建設業協会の対応	作業日
5月27日 13:30	農場から異常豚発生の報告		
5月28日 20:00	国において、患畜と判定		
21:00	発生農場での殺処分を開始		
5月29日 17:00		埋却地の掘削を開始 📷①	1日目
5月30日 17:00		殺処分した豚の埋却を開始 📷②	2日目
6月17日 14:00	発生農場での殺処分が完了		20日目
6月20日 15:00		殺処分した豚の埋却が完了 📷③	23日目



▲埋却溝の掘削：5月29日 📷①



▲殺処分した豚の埋却：5月30日 📷②



▲消毒用資材（消石灰）の散布：6月1日



▲埋却溝の覆土：6月18日 (📷③)



🔪 家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定

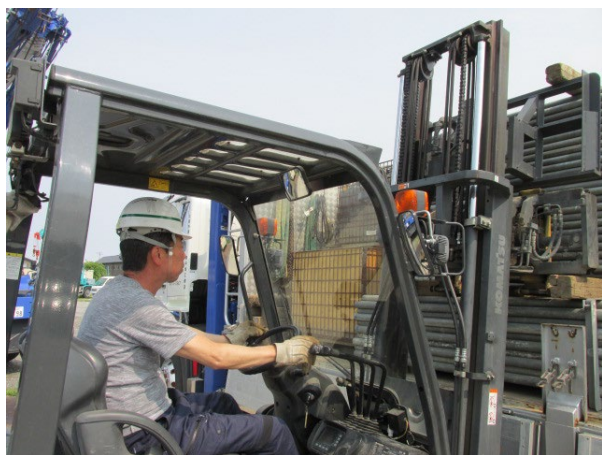
岩手県と岩手県建設業協会では、家畜伝染病の発生に備え、平成19年4月、重機の調達等に関して協定を締結しました。

これまで、鳥インフルエンザ発生では、過去4回にわたり御対応いただきましたが、豚熱については、今回が初めてとなりました。

◀ ◀ 日刊岩手建設工業新聞社 御提供

🔪 実際に従事いただいた方にお聞きしました 🔪

御協力ありがとうございました



(株)中塚工務店 鹿糠 武浩 さん



兼田建設(株) 中村 佑希 さん

フォークリフトの
オペレーター

🔪 通常はどのような
仕事をされていますか？

舗装工事、下水道工事、
林道工事、民間外構工事など

3日間

🔪 今回の防疫措置では
何日間従事しましたか？

3週間

フォークリフトの
オペレーター

🔪 どのような作業に
従事しましたか？

埋設作業における
全体の管理、調整

夜間の作業だったため、体が
慣れるまで疲労を感じました。
また、通常とは違う作業だった
ため、神経を使いました。

🔪 大変だったことを
教えてください

暑さや臭いのほか、各社から
集まった方々との
コミュニケーションに
気を使いました。

(株)中塚工務店 鹿糠 武浩 さん

兼田建設(株) 中村 佑希 さん

他社の方々との合同作業で
あったため、
普段より声かけて、意思疎通を
図ることに気がつけました。

🔧 作業で気をつけた
ことはありますか？

体調管理のほか、現場内で
事故やトラブルが
起こらないよう、気配り目配り
を行いました。

自分が携わった仕事の成果が目
に見えてわかること！

よく言われる「地図に乗る仕
事」としていつまでも消えるこ
となく、成果が「そこにある」
ことだと思います。

たくさんの人の中の
一部分ではありますが、
自分が関わった仕事だと
確認することができます。

🔧 最後に、建設業の
魅力ややりがいなどに
ついて教えてください！



建設業の魅力は、
なんといってもものづくりの
楽しさを味わえること！
計画どおりに作業が進められ、
完成した時の達成感は
たまりません。
そして、現場の仲間とコミュニ
ケーション等を取りながら、
チーム一丸となって同じ目的に
向かって進んで行くことに
やりがいを感じます。
建設業は地域の暮らしを支え、
常に地域に必要とされる
社会貢献度の高い仕事と
考えます。

自然災害の激甚化・頻発化や家畜伝染病の多発を踏まえ、県民の安全・安心な暮らしを守ることができるよう、地域の建設企業が災害発生時に即応できる体制の確保・維持のため、県、建設企業、建設業団体が協働して取り組んでいます。

